

新型コロナウイルスの周産期感染 の予防法と新生児管理法の確立 に向けた臨床研究

日本大学

医学部

小児科学系小児科学分野

森岡一郎

日本新生児成育医学会から

新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について

2020年2月26日（第1版）

2020年2月28日（第2版）

2020年3月23日（第3版）

2020年10月19日（第4版）大改訂

日本新生児成育医学会

理事長 中村友彦

予防接種感染対策委員会委員長 森岡一朗

2019年12月に中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症は、世界的に大規模な流行となり様々な知見が集積されている。現在、日本では新型コロナウイルス感染症は指定感染症としての対応が必要である。本学会では、現時点の知見をもとに新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応案を改訂した。この対応案は、現時点の知見と流行状況に基づいた暫定的な案であり、今後の新知見や流行状況により適宜改訂を行う。

新型コロナウイルス陽性母体から出生した新生児への感染について、これまでにいくつかのレビューや症例が報告されている [1,2]。生後早期の新生児の新型コロナウイルス検査陽性率は0.0-4.7% [3-18]とされている。血清学的にIgMの上昇が確認され先天感染が示唆された例もあるが [4]、胎盤の構造や免疫機能面からも胎盤を介した感染は稀とされている [19,20]。同じコロナウイルスのMERSや季節性コロナウイルスの先天感染もほとんどみられなかった [21]。以上から、新型コロナウイルスが分娩前に感染する可能性はあるものの、その頻度は稀であるといえる。しかし、厳格な感染対策を講じなければ、感染した母体から新生児への出生後の水平感染も懸念される。感染した新生児の症状は、一部で重症化する報告があるが、多くは無症状か軽症である [5]。

出生後の新生児の管理について

コロナウイルス感染に関連した新生児への感染を防ぐ対応（主に隔離および飛沫・接触感染予防策）をすることが推奨される。各状況に応じた対応を以下に記載する。

項目

- 出生後の新生児の管理について
- 新生児の隔離
- 母乳の取り扱い・直接授乳について
- 妊婦全例に対する新型コロナウイルスPCRスクリーニングについて
- Q & A

<http://jsnhd.or.jp/pdf/20201019COVID-19.pdf>

我が国の現状と実態


PEDIATRICS
INTERNATIONAL

Official Journal of
the Japan
Pediatric Society



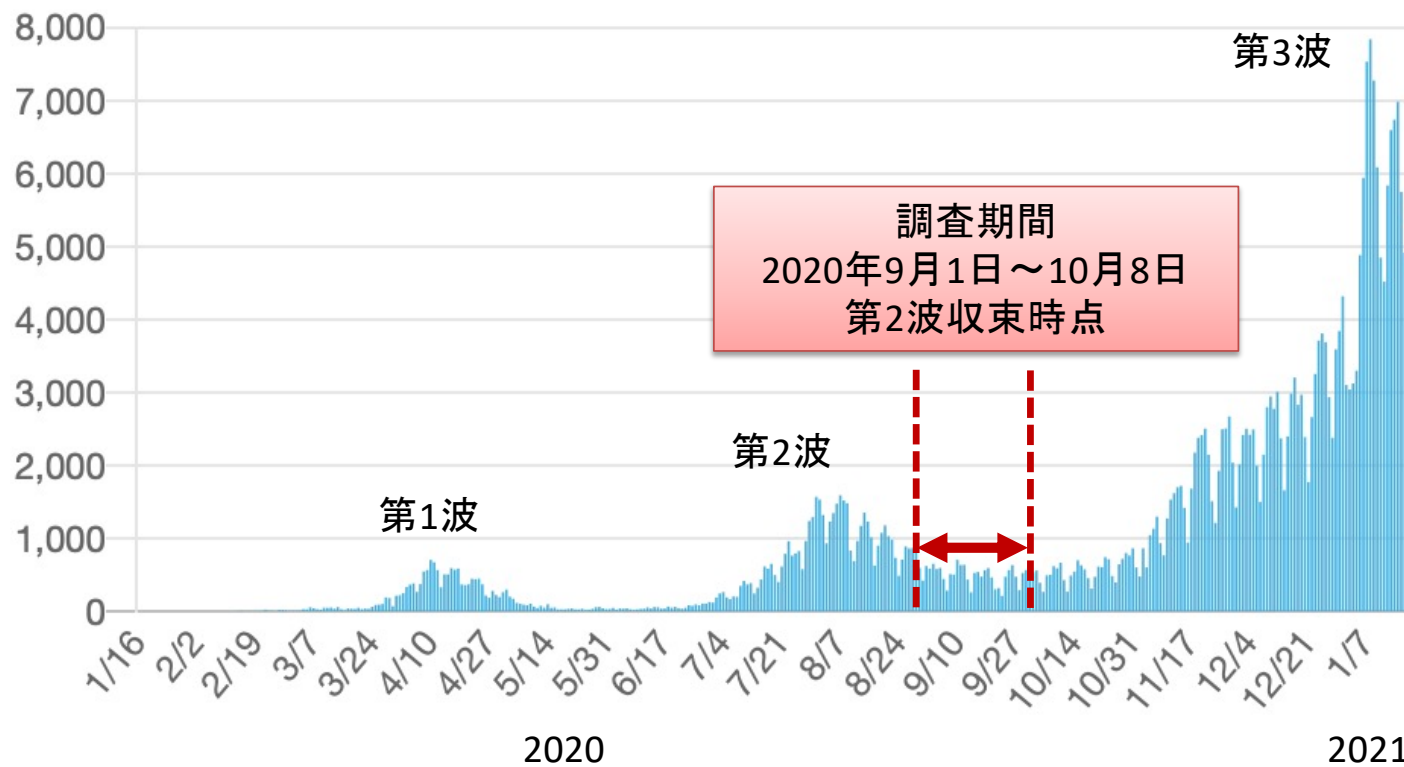
ORIGINAL ARTICLE |  Free Access

Medical care of newborns born to mothers with confirmed or suspected severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 infections in Japan

Ichiro Morioka , Satoshi Toishi, Takashi Kusaka, Kazuko Wada, Katsumi Mizuno, The committee of neonatal medicine in Japan Pediatric Society

First published: 27 May 2021 | <https://doi.org/10.1111/ped.14855>

調査 第2波後



SARS-CoV-2感染の母親からの新生児の出生数と陽性率

極めて少ない！！

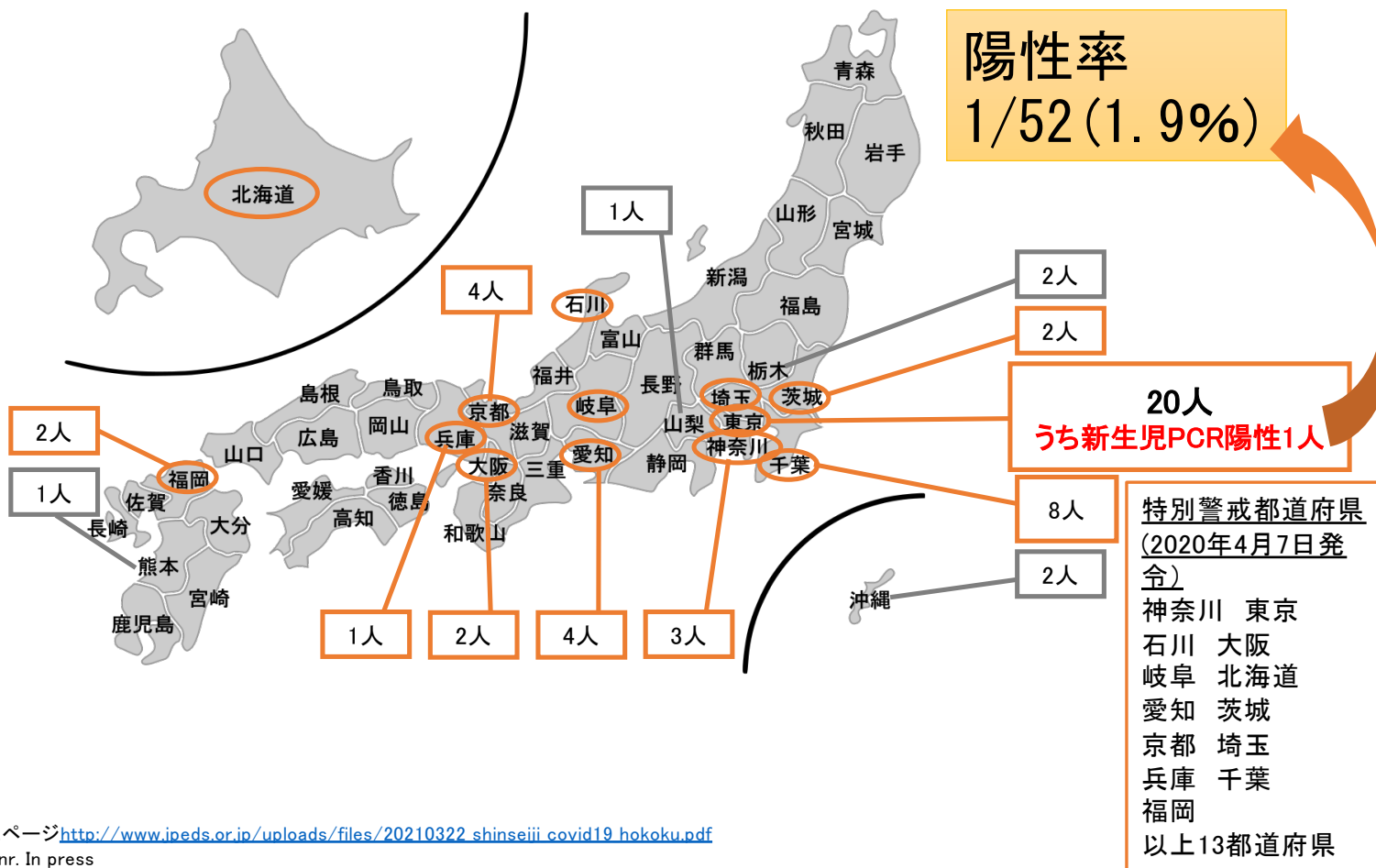


表 5-2 国際機関、学会による推奨

国際機関／学会	発行／更新日付	対象	タイトル	母子同室	児の隔離法	直接授乳	搾乳
WHO ¹⁰⁾	3月13日	医療従事者	Clinical management of severe acute respiratory infection (SARI) when COVID-19 disease is suspected	出生直後から昼夜を問わず同室		奨める	奨める
WHO ¹¹⁾	6月23日	医療従事者	Breastfeeding and COVID-19	記載なし		奨める	奨める
CDC ¹²⁾	5月20日	医療従事者	Evaluation and management considerations for neonates at risk for COVID-19	一時的分離を強く考慮すべき。ただし母親の希望を重視 ⇒同室可能	個室隔離、母子間に6フィート以上の間隔をとる、保育器に入れる	記載なし	記載なし
CDC ¹³⁾	6月25日	妊婦、母親	If you are pregnant, breastfeeding, or caring for young children	一時的分離を強く考慮すべき。ただし母親の希望を重視 ⇒同室可能	個室隔離、母子間に6フィート以上の間隔をとる。保育器に入れる	希望により可能	奨める
日本新生児成育医学会 ¹⁴⁾	3月23日	医療従事者	新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について	一時的に隔離	児は保育器隔離またはコホート隔離(2メートル以上)。可能なら陰圧個室	避けることが望ましい	できるだけ行う
日本小児科学会 ¹⁵⁾	5月13日	一般	新型コロナウイルス感染症に関するQ&A	記載なし		避ける	可能
米国小児科学会 ¹⁶⁾	7月22日	医療従事者	Newborn Care: Guidance for the care of infants whose mothers have suspected or confirmed COVID-19	同室可能		禁忌ではない	可能
日本産婦人科感染症学会 ¹⁷⁾	5月25日	妊婦	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について 妊娠中ならびに妊娠を希望される方へ(第10版)	面会不可		不可	記載なし
日本産科婦人科学会 日本産婦人科医会 日本産婦人科感染症学会 ¹⁸⁾	6月11日	医療従事者	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応(第四版)	接触不可	児は個室で保育器隔離。母児双方ともPCRでウイルスが陰性となるまで母体との接触は避ける。	不可	不可

WHO : World Health Organization, CDC : Centers of Disease Control and Prevention

母子への対応 (世界保健機関,米国,日本) 2021/11時点

世界的には母子分離を避ける母乳栄養の傾向がより強くなっている

日本は制限傾向つづく

- 流行規模
- 指定感染症
- 成人診療科との考えのギャップ
- 患者さん自身も望まないこともある国民性

野崎昌俊, 和田和子.
新生児への対応 産科の感染防御ガイド
新型コロナウイルス感染症に備える指針. (改変)
メディカ出版. 2020.10

世界標準

SARS-CoV-2感染の母親からの出生した新生児のケア

- ・早期母子接触及び母子同室:

予防と対策の実施、児の観察のもと推奨

- ・母乳栄養:

WHOは感染予防対策のもと、標準的な乳児栄養ガイドラインに従って栄養を与えることを推奨

SARS-CoV-2感染の母親からの出生した 新生児11症例の調査(実際)

- 正期産児:9例、早産児:2例(35, 36週)
- 蘇生を要した 3例(酸素、CPAP、気管挿管)
- 全例、2回以上の鼻咽頭ぬぐい液のPCR検査の陰性を確認
- 哺乳は、**全例人工乳**から開始

搾乳破棄して母乳指導している施設、一度母乳を止めた施設もあったが、いずれも母親の症状改善とPCR陰性確認後からは母乳栄養を可としていた

- **全例母子分離**での管理

まとめ

- 新型コロナウイルス陽性の母親から出生した新生児について
 - 出生直後は、2～3%で、鼻咽頭スワブが陽性になる例が出ることを明らかにした
 - 陽性の新生児は、ほぼ無症状。
- 他国の現状
 - 母子同室、母乳栄養、早期母子接触など、通常の新児管理やケアを行うことが増えている
- 我が国の現状
 - 指定感染症、病院の感染対策という理由で、母子分離、人工栄養

今後は、新型コロナウイルス陽性の母親から出生した新生児も母子関係の確立と感染対策の両立が求められる時代に入っている